



地方独立行政法人

岩手県工業技術センター

IWATE INDUSTRIAL RESEARCH INSTITUTE

デザイン経営導入に向けた “デザイン”の活用

技術シーズ創生・発展研究事業 発展研究（令和3年度）

発表者

産業デザイン部 永山雅大

令和4年6月17日 岩手県工業技術センター 成果発表会

目次

1. デザイン経営について
2. デザイン思考
3. “デザイン” の活用方法
4. IIRI DESIGN LABについて

1. デザイン経営について

- ・デザイン経営とは

デザイン経営とは「**デザインを活用した経営手法**」です。

デザインの活用方法は、**デザイン思考の導入**や**デザイン人材との共創**、**デザイン職の雇用**などが挙げられます。

- ・「デザイン経営」宣言 (2018年5月 経済産業省・特許庁)

「デザイン経営」は、
ブランドとイノベーションを
通じて、企業の産業競争力の
向上に寄与する。

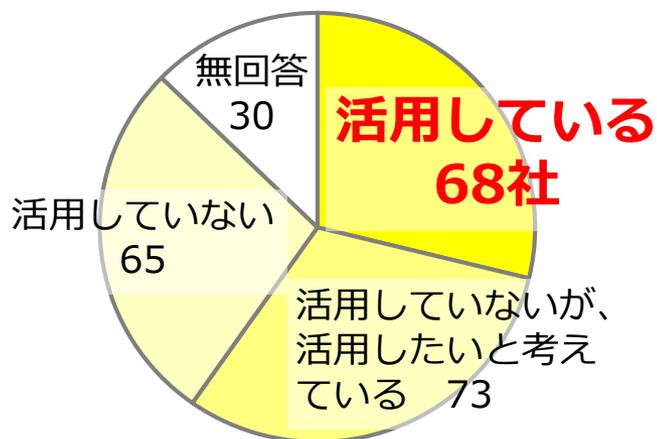


(出典) 「デザイン経営」宣言 (経済産業省・特許庁 平成30年5月) より

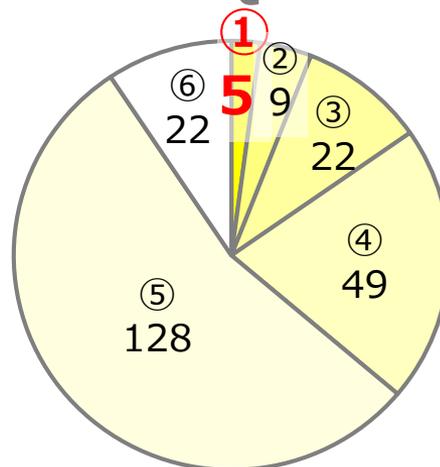
1. デザイン経営について

・岩手県内の状況

Q. デザインの経営資源としての活用



Q. 「デザイン経営」宣言の認知度



①よく知っており、デザイン経営を導入している

②知っているが、導入はしていない

③ある程度知っている

④聞いたことがある

⑤知らない

⑥無回答

※回答数合計236社（複数回答）

デザイン経営を導入している企業は僅か（5/235社）

→市場競争力を高めるため、デザイン経営の導入支援が必要

「県内中小企業におけるデザイン活用に関するアンケート調査」結果

調査期間：2019年8～9月、送付先：製造業の中小企業、送付数：623社、回答数：235社

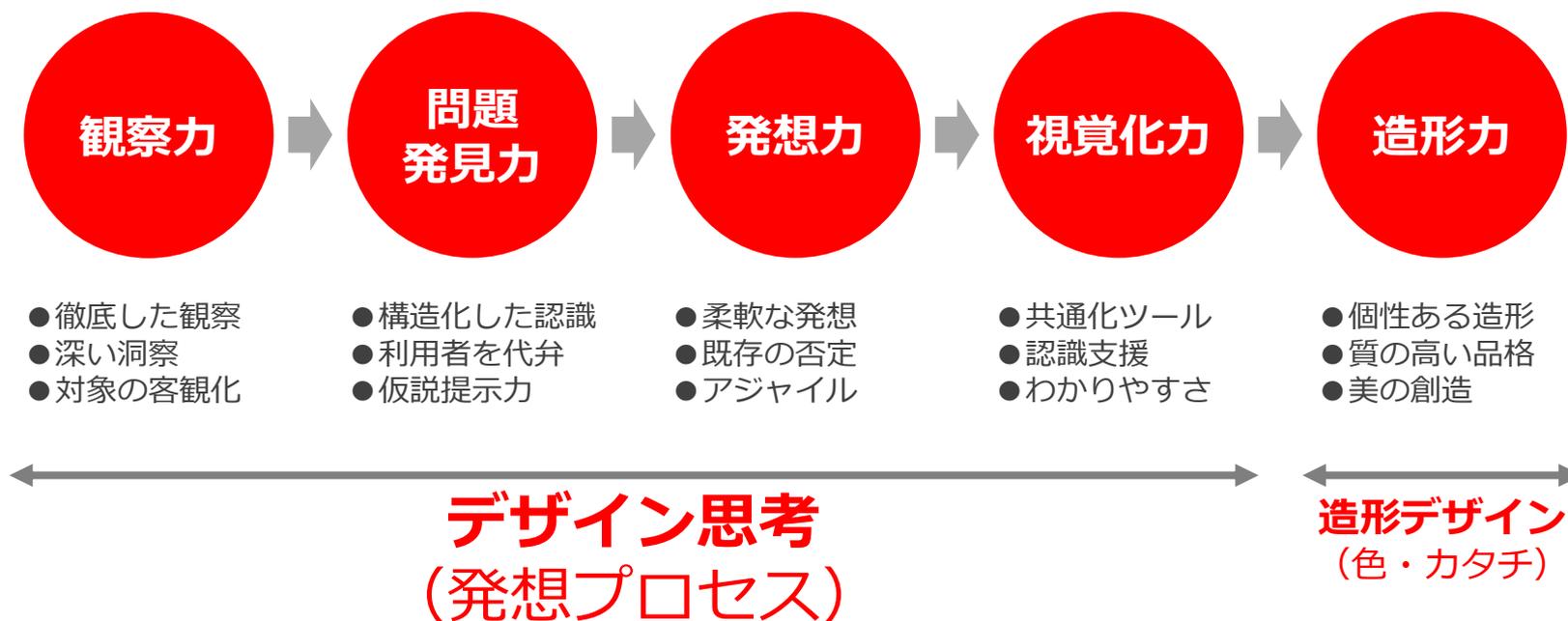
（出典）高橋正明、菊池仁、近藤信一、県内中小企業におけるデザイン活用に関する調査、岩手県工業技術センター 研究報告 第23号、2021

2. デザイン思考

・デザイン思考とは？

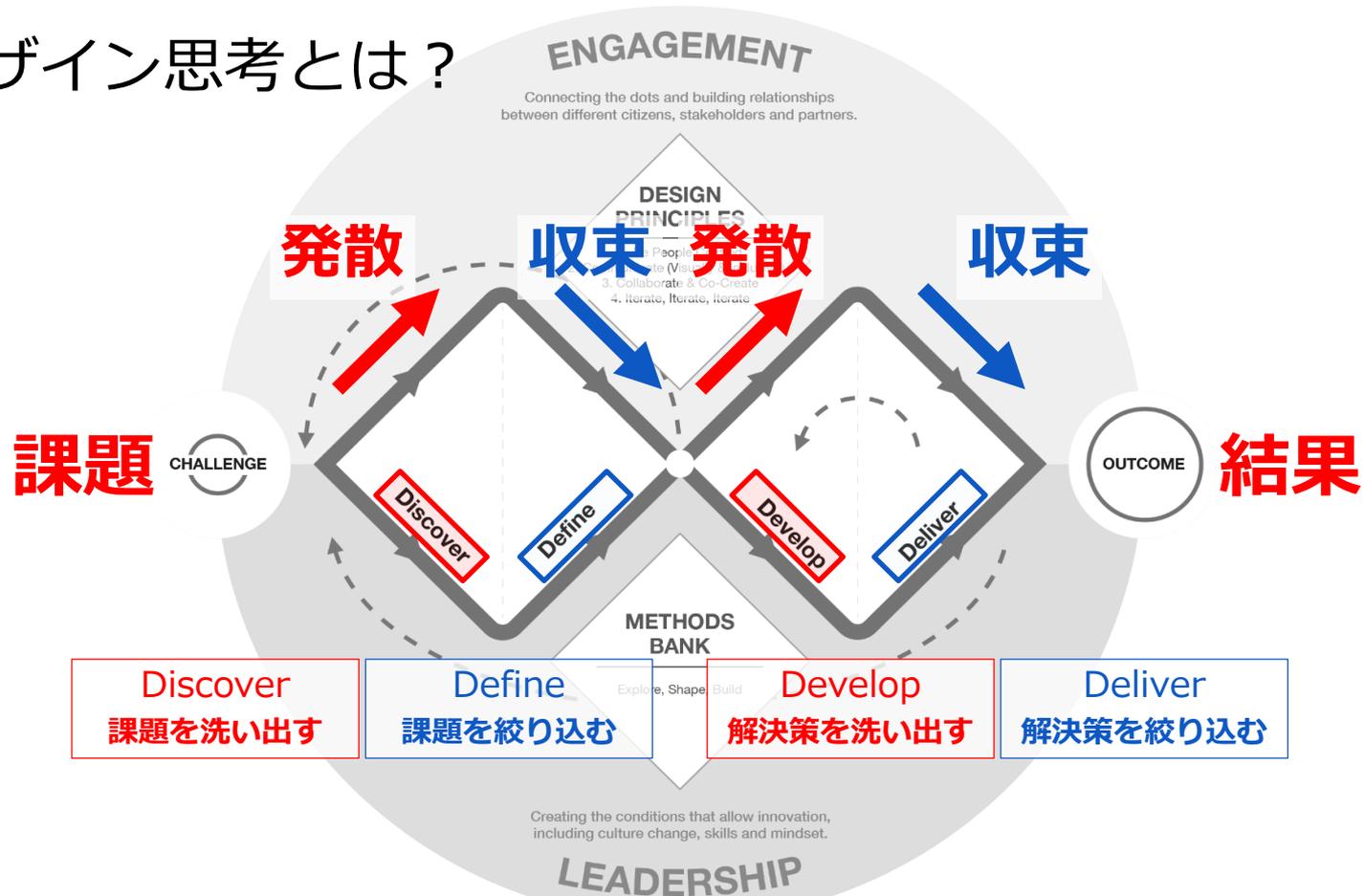
デザイナーがデザインを行う際の考え方や手法を活用して問題解決を行う手法です。

デザイナーの5つのデザイン能力



2. デザイン思考

・デザイン思考とは？



英国デザイン協議会のデザイン思考 (ダブルダイヤモンド)

出典 <https://www.designcouncil.org.uk/>

参考 木浦幹雄、デザインリサーチの教科書、株式会社BNN、pp. 102-104 (2020)

2. デザイン思考

・デザイン思考を行うには？

「いかなる個人よりも全員の方が賢い」

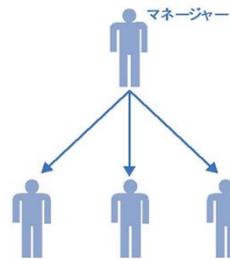
ティム・ブラウン, デザイン思考が世界を変える, 早川書房, 2014



**デザイン思考は
チームで取り組む**

グループ

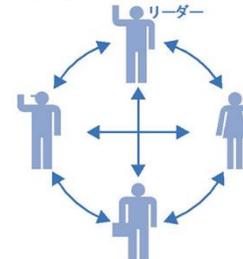
グループは、共通の性質で分類した人の集まり。マネージャーがいて、相乗効果はない。



→効率化など**正解のある問題**に向いている

チーム

チームは、ある目的のために協力・行動するグループ。リーダーがいて、相乗効果がある。



→課題も**正解もはっきりしない問題**に向いている

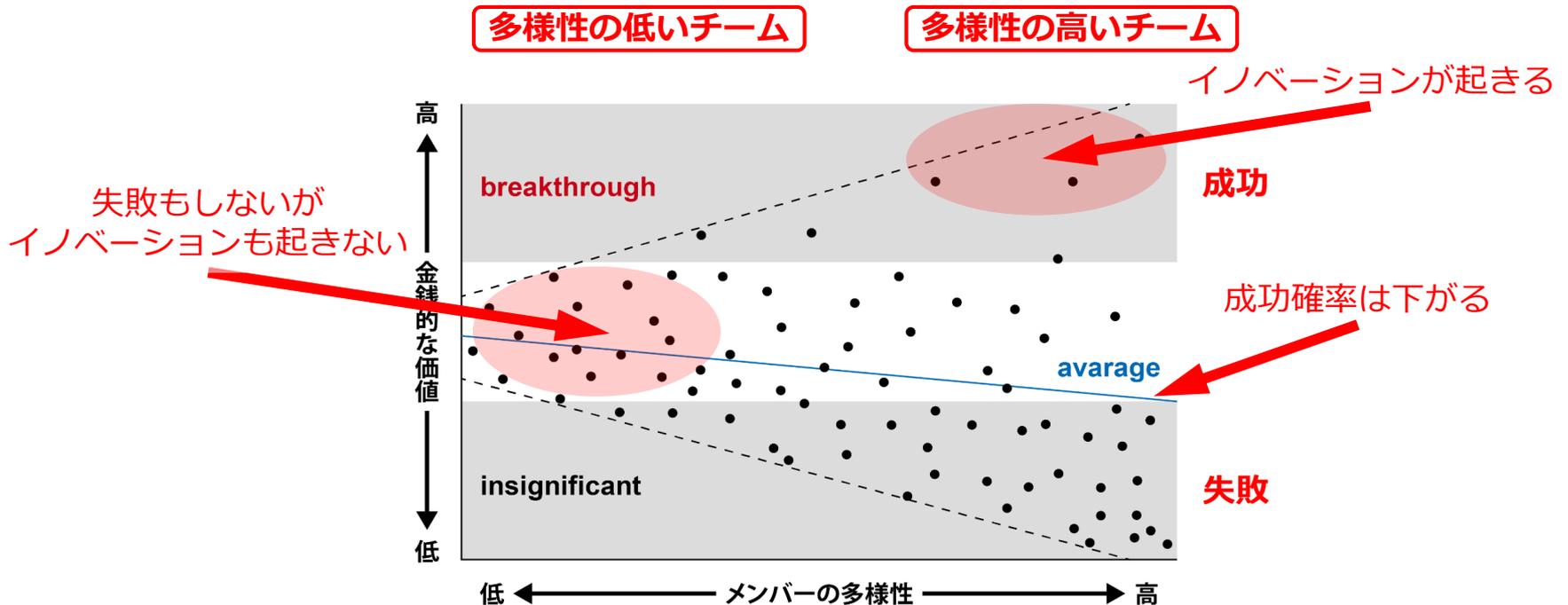
手塚明、大場智博、山村真一、デザインブレインマッピング、丸善出版、pp.55-56 (2019)

VUCA※の時代にグループの体制では問題解決が難しくなってきた

※Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)

2. デザイン思考

・イノベーションを起こすには？



➡プロジェクトチームのメンバーの多様性が高くなると、成功確率は下がるが、イノベーションが起きる可能性が出てきます。

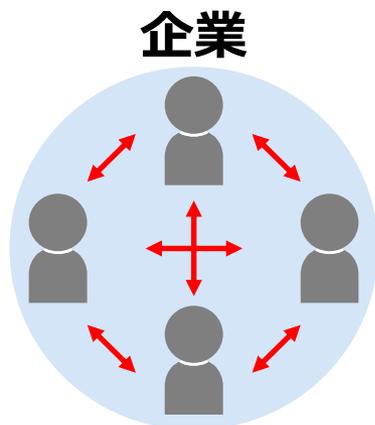
Lee Fleming, Perfecting Cross-pollination, HBR, September 2004
(邦訳「学際的コラボレーション」のジレンマ、DHBR 2004年12月号)
手塚明、大場智博、山村真一、デザインブレインマッピング、丸善出版、p. 68 (2019)

3. “デザイン”の活用 2つのアプローチ

- ・ 県内企業へのデザイン経営の導入

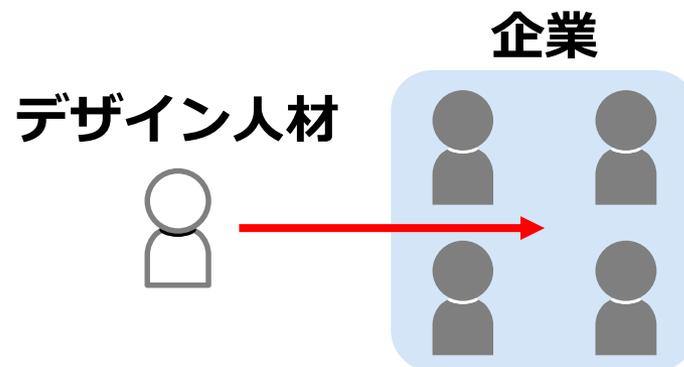
デザイン経営の導入には、**2つのアプローチ**があると仮説を立て、研究を進めています。

デザイン思考の活用



内側からのアプローチ

デザイン人材との共創



外側からのアプローチ

3. デザイン思考の活用

- 活用事例紹介
デザイン思考の手法を活用し、
岩手県工業技術センター職員に
よる研修会を開催しました。
- テーマ
どのようにしたら職員の満足度が
向上するか？



研修会の様子

3. デザイン思考の活用

- ・活用事例紹介

デザイン思考の手法としてDBMを用いました。

デザインブレインマッピングは、
問いの発見やUXデザイン、**共創を促す環境（手法と道具）**です。

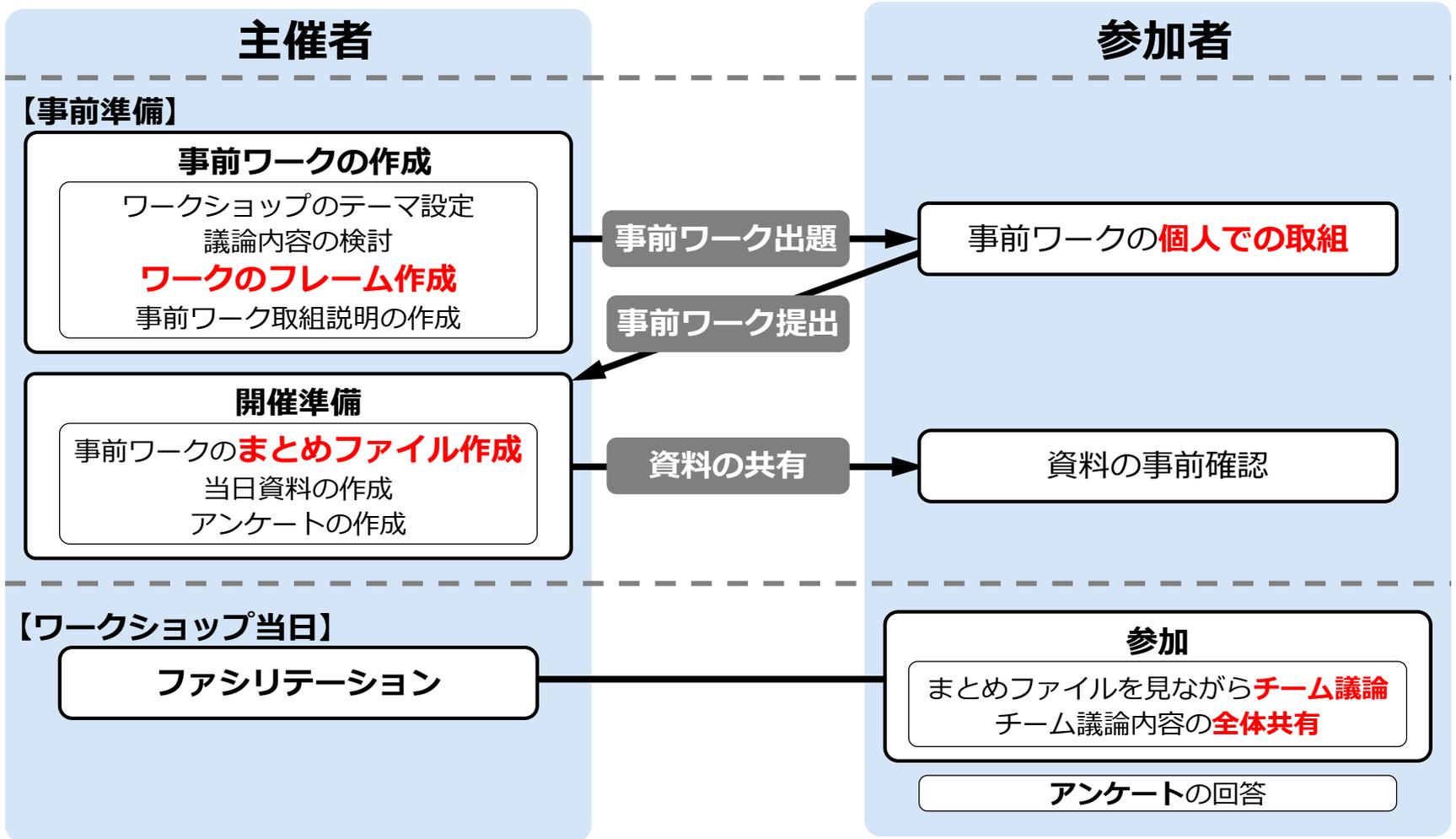


属人性に依存するスキルではなく**チーム全体の力を底上げ**するメソッド、
および、**すべての人にクリエイティビティを発揮**させる仕組みです。
国立研究開発法人 産業技術総合研究所が研究開発を行なっています。

〔参考〕 構想設計コンソーシアム <http://monozukuri.org/tide/code.html>

3. デザイン思考の活用

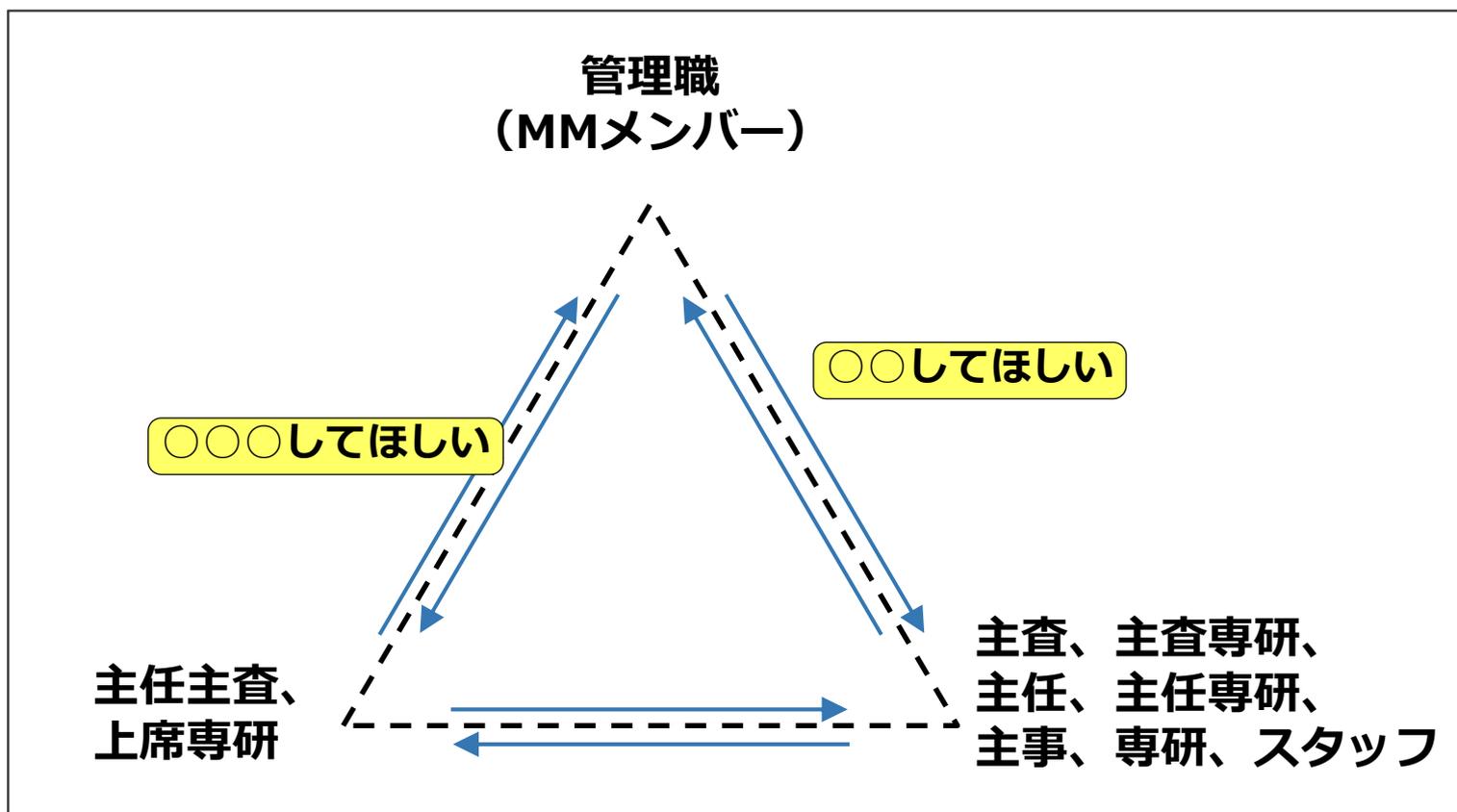
・ワークショップ方法



3. デザイン思考の活用

- ワークのフレームについて

お互いに期待することを想像してみよう！



3. デザイン思考の活用

- ・ワークショップの様子（紹介動画からの切抜き）



3. デザイン思考の活用

- ・ワークショップの様子（紹介動画からの切抜き）



3. デザイン思考の活用

- ・ワークショップの様子（紹介動画からの切抜き）



3. デザイン思考の活用

- ・ワークショップの様子（紹介動画からの切抜き）



3. デザイン思考の活用

- ・ワークショップの様子（紹介動画からの切抜き）



3. デザイン思考の活用

・結果

	主催者	参加者
DBMの手法	事前ワークで個人意見を引き出し、ワークを集約（見える化）した	事前ワークによる思考の整理ができた
ワークショップ設計	チーム議論と全体発表を組み合わせた	事前ワークにより、スムーズに議論に入れた
チーム編成	フラットなチーム編成を仕掛けた	職位に影響されない活発な議論ができた
得られた気付き	手法の有効性を確認	組織全体で継続して取り組む必要性を認識

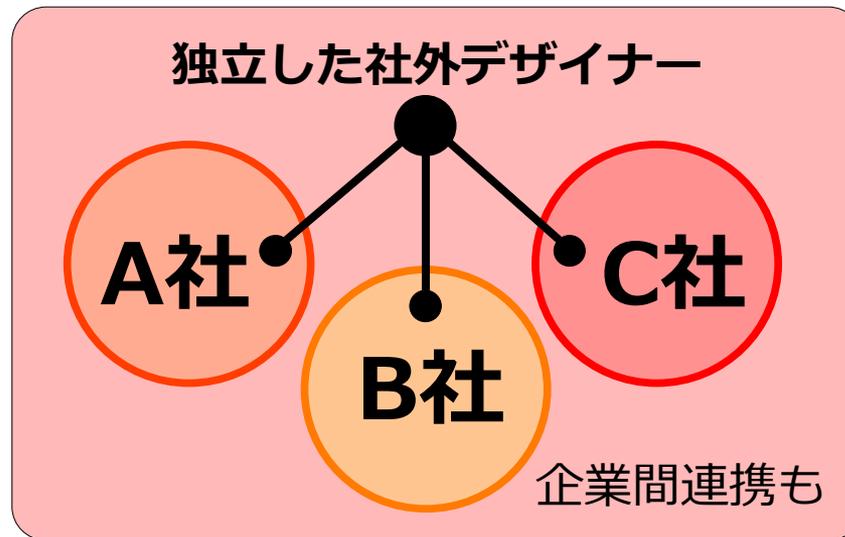
3. デザイン人材との共創

- 概要

県内企業とデザイン人材とのマッチングを行い、

「岩手発〔地方版〕デザイン経営」モデル

を適用して取り組む商品開発への支援を実証する。



※共創には企業の
組織変革が必要

「岩手発〔地方版〕デザイン経営」モデル

近藤信一、菊池仁、高橋正明：県内中小企業におけるデザイン活用に関する調査研究、
地域協働研究 研究成果報告書8、65、岩手県立大学研究・地域連携室、2020
※R1岩手県立大学地域協働研究で作成

3. デザイン人材との共創

・ 企業とデザイン人材のマッチング手法

これまでの問題

解決案

企業とデザイン人材
互いに求める重要度にギャップ

2種類のシートでギャップ解消

企業→QCDを重要視
デザイン人材→感性を重要視

シートA (QCD中心)

デザイン人材情報登録用紙

シートB (感性中心)

デザイン人材ピックアップポートフォリオ用紙



企業との共創可能な
デザイン人材
16名が登録済み

近藤信一、三好純矢：県内中小企業におけるデザイン活用に関するモデルの社会実装とインフラ構築—岩手版（地方版）
デザイン経営モデルと支援システムの確立、地域協働研究 研究成果報告書9、46-47、岩手県立大学研究・地域連携室、2021
※マッチングシートはR2岩手県立大学地域協働研究で作成

3. デザイン人材との共創

- ・ R3年度までの結果
 - ・ 金属製品製造事業社1社とデザイン人材をマッチング。商品開発が進行中。
 - ・ マッチングシート等を活用した手法の有効性確認。
- ・ R4年度の予定
 - ・ **新規のマッチング**による商品開発。
 - ・ **マッチングの最終評価**を商品開発完了時に実施。

3. “デザイン”の活用について

・ “デザイン”を活用できる課題

- 様々な解が存在する課題
- 自ら解を定める必要あり

DXの取組み

SDG s の取組み

ESGの取組み

働き方改革

組織課題解決

etc...

“デザイン”を活用

- ・ デザイン思考の導入
- ・ デザイン人材との共創
- ・ デザイン職の雇用

4. IIRI DESIGN LABについて

・現在のデザインラボの取組み

コト（ユーザー体験＝北国〔岩手〕の暮らし）づくり
のためのモノ（新商品）づくり

製造事業者及びデザイナー等の
商品開発を支援

県内の製造事業者

デザイナー等



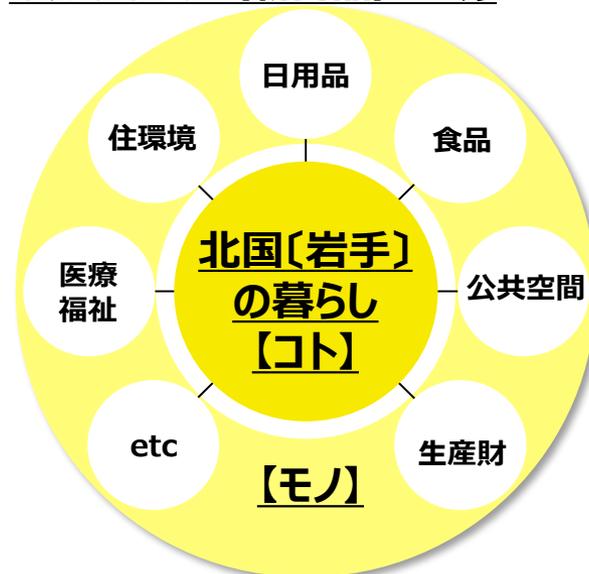
IIRI DESIGN LAB

地方独立行政法人岩手県工業技術センター デザインラボ

デザインの普及啓発

商品開発支援

デザイン手法・
製品技術の研究開発



魅力的な
商品の開発

・今後の予定

研究で得た知見をもとに、**企業等の“デザイン”活用**に
有効なデザインラボの支援メニュー化を検討する。

ご覧いただきありがとうございました。